

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年2月14日(水) 9:00~11:00

場所 岡山県立西備支援学校 会議室

参加者

A 会長、B 委員、C 委員、D 委員、E 委員、F 委員、G 委員、校長、(委員1名欠席)
副校長、H 事務長、I 教頭、J 教頭、K 教頭、L 教頭、M 主幹教諭、N 指導教諭

(1) 開会

①開会挨拶(校長)

本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。本年度も本校の教育活動に多大なるご尽力をいただきました。皆様のおかげで子供たちの教育を推進することができました。

今年度はアフターコロナでの新しい生活ということで、3年間実施していなかった教育活動を再開しております。その中で、PTA主催の夏祭りや地域に出たの様々な学習、また地域や外部の方の力を借りての授業など、子供たちの学びの幅もしっかりと広がったのではないかと思います。

また、子供たちの姿を見る中で、地域の方と繋がる活動の重要性を改めて認識しています。本日は教育活動や学校評価についての報告、来年度の学校経営計画について説明する予定です。皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

②日程説明(水野副校長)

(2) 説明

①令和5年度学校教育活動について(報告)

M主幹教諭 本年度、地域の方のご協力をいただきながら教育活動に取り組むことができました。地域のボランティアの方と一緒にいった活動としては、C部門は絵本の読み聞かせ、A小は餅つきやしめ縄づくり、A高はグラウンドゴルフがあります。今回は、A小の餅つきの様子を映像でご覧ください。当日はNHKや笠岡放送の取材がありました。この活動にはA小学部の全学年が参加しました。地域の方には、準備から片付けまでご協力いただきました。餅つきは、学校でも長い間やっておらず、地域の方も初めての経験という方が多くありました。これから少しずつ回数を重ねる中で、本校の児童生徒の障害特性の理解や関わり方、コミュニケーションの取り方に慣れていただき、活動を深めていけたらありがたいなと思っています。

A会長 私もニュースを見ました。地域とのかかわり、ボランティアについて、ご意見はありますか。今回の活動は学校からボランティアを依頼したのですか。

M主幹教諭 学校からです。

L教頭 毎年、小学部・中学部の児童生徒に笠岡東ライオンズクラブの方がクリスマスプレゼントを持ってきてくださっていて、そのご縁があったので声をかけさせていただきました。一緒に何かができたらよいなと思っていましたが、子供たちが経験したことが少ない餅つきを経験させたいということになり、一緒にしていただくことになりました。

A会長 ボランティアの活動の報告があったが、他にあれば各学部から詳しく教えてください。

L教頭 A小学部では学習支援ボランティアに週1回大学生が来ています。また、社会人ボランティアの方が、クリスマス会の時にクリスマスに関する絵本の読み聞かせをしてくださいました。地域の方に入ってもらえると、子供たちの表情や集中が全然違ってきます。地域の方と関わ

っていると、ものすごく嬉しそうな顔して、楽しそうに活動をしています。

L 教頭 B部門では絵本の読み聞かせに毎月1回来てもらっています。12月に音楽の授業の中で楽器の演奏してくれるボランティアが来てくださっています。

J 教頭 A 中学部では、地域でボランティアをしようということで、井原駅の清掃に行ってきました。また、井原駅で作業学習製品の販売学習を行いました。昨年度は新型コロナの影響で、宣伝を控えて来客の制限をしていましたが、今年については保護者や福祉サービスの事業所の方などがたくさん来てくれました。ただ、どちらの活動も井原駅に限られているので、どこか清掃してほしい場所があるとか、こういうところで販売したらもっと売れるのではというご意見がありましたら教えていただきたいです。

K 教頭 A 高等部では夏前に井原グラウンドゴルフ協会の方が来てくださり、総合的な探究の時間の中で一緒に交流をしました。夏休みには、岡山県特別支援学校グラウンドゴルフ大会があり、そこに希望する生徒が参加をして、昨年に続き入賞することができました。子供たちにとってはとても意欲が高まる環境になっているかなと思っています。作業学習の地域型実習では、リサイクル班は大井公民館にペットボトル回収でお世話になっています。また、おかげ市への出店もしました。職業の授業ではF委員の職場へ農業体験に行かせていただき、社会に出て大切なことを学習させていただきました。

A 会長 学生ボランティアはどこから来られているのですか。

M 主幹教諭 川崎医療福祉大学、新見公立大学、福山平成大学から来ています。

A 会長 自主的に応募があるのですか。

M 主幹教諭 教育実習や介護等体験のつながりをお願いしました。また、笠岡高校ボランティア部の生徒にはせいび祭ステージ発表の補助等をお願いしました。3月中旬には、教育活動の中でのボランティアを予定しています。

②令和5年度学校評価書(案)について

副校長 まず保護者のアンケート結果についてです。最高点を4として、3.7以上を評価点が高いとしています。評価点が高かった項目は「教育活動の工夫とか改善に関するもの」「個別の教育支援計画の作成に関するもの」「これに応じた目標設定に基づく指導、支援に関するもの」で、保護者の方にお渡しをする学習の記録や個別懇談での教師からの説明の内容等を含めて評価をしていただきました。「プライバシー保護と人権の配慮に関するもの」「病気や被害の対応に関するもの」「教育環境の整備等に関するもの」「給食の安全に関するもの」も高評価をいただきました。社会的に関心の高い内容でもあり、保護者の方の学校への期待も大変大きい内容だと思っています。

評価点が低い項目は、「卒業後に必要な力を伸ばすための教育活動に関するもの」「社会生活を送る上で必要な情報の提供に関するもの」「地域の教育力の積極的な活用に関するもの」「関係諸機関との連携に関するもの」でした。これらは昨年度も相対的に低い傾向を示していましたが、評価点としましてはいずれも上がる傾向にあり、今年度は、学校として具体的な内容や活動を学校教科アンケートの配付と同時に保護者の方にお示ししたので評価点が上がったのではないかと考えています。

評価点が上がった項目が7項目ありました。「卒業後に必要な力を伸ばすための学習活動に関するもの」「社会生活を送る上で必要な情報の提供に関するもの」については、評価点としては相対的に高くはありませんが、卒業後に必要な力とは何か、社会生活を送る上で必要な力とは何かということについて、具体的な内容を進路説明会や福祉制度等説明会、進路だよりを通じて保護者に伝えるようにしました。また、各種たよりの中でも折に触れ伝える

ことで保護者の理解が進み、評価点も上昇したと考えます。また、後でも説明しますが、進路説明会や福祉制度等説明会に小学部、中学部の保護者の参加が増えてきました。これも広報や周知の成果だと思っております。ただ、参加をしてくださる保護者の方は毎回参加してくださるけれども、参加が難しい保護者の方の参加が増えないことは課題です。学校評価アンケートの中にも、「参加していないから内容がよくわかりません。」という記述もありました。その点も含め、情報発信のあり方というのは今後の課題だと思っております。

評価点が下がった項目としては、「病気やケガへの適切な対応に関するもの」があります。感染症の予防につきましては、新型コロナウイルスの5類移行に伴って、学校の対応もかなり緩和をしてきました。それについて、障害の重いお子さんをお持ちの保護者からは不安の声も聞こえておりました。そのあたりを、反映していると考えています。学校としましては、引き続き状況に応じた適切な感染対策を行っていきたいと考えています。以上が保護者のアンケートの結果になります。

続いて教職員のアンケートの結果です。毎年のことではありますが、教職員より保護者の評価の方が高くなっています。教職員は、振り返りをする中で色々な課題が思い浮かぶようです。

教職員の評価点が高い項目は、「個別の教育指導計画にかかる保護者との合意形成」「病気やけがの対応」「災害時に備えた取り組みに関するもの」でした。評価点の低い項目は、「前年度からの引き継ぎに関するもの」「学習評価に関するもの」「社会生活を送る上での情報提供に関するもの」「地域の教育力の活用に関するもの」でした。加えて、「センター的機能」「合同学習の取り組み」「空き時間の活用」があります。今年度教員に対するアンケートの内容を変えたということもあり、前年度との比較はできていません。

次に、保護者と教職員の評価点の比較についてです。保護者の評価点が教職員の評価点よりも低かった項目は「関係機関との連携に関するもの」です。これについては、関係機関との連携は個別対応になることが多く、保護者に発信する内容も限られてきますので、学校の行っていることが保護者に見えにくいと考えます。情報発信が可能なものについては、進路説明会や福祉制度等説明会等の機会に、関係機関との連携の視点を入れて発信していく必要があると考えています。

今年度、課題となる項目の改善に向けて、保護者がどのような情報を求めているのかを確認しながら進めてきました。今後も、それを引き続き行っていくことと、情報発信のやり方の工夫が必要だと考えています。先日のPTA役員会で、「ホームページface bookを見たことがありますか」と問いかけたところ、ホームページについては役員の方のほぼ全員が見ておられたのですが、face bookは視聴できる方が限られるということもあり、見た方がとても少なかったです。教員が一生懸命発信していることが保護者に伝わっていないということもあると思われます。

「プライバシーや人権に関するもの」については、教員と保護者との評価の差が0.2ポイントありました。繁忙期の学年始めや学期末には、毎年うっかりミスや連携不足によるアクシデントが発生しているので、教職員の注意力を高めていくことはもちろんですが、教員の働き方を見直していくということも含めて改善していかなければならないと思っております。「学習評価」については、管理職による学校運営の改善も含み、教職員一人一人が自信を持って、前を向いて生き生きと業務できる職場をこれからも作っていかねばいけないと思っております。

その他、先ほどからの説明とも重なるのですが、個人情報に配慮しながら学校の情報をどのように発信していくかということについては、これからの課題です。委員の皆様のご意見い

ただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上がアンケートの結果についての報告でした。

次に、学校経営目標重点目標の評価についてです。今年度大きく成果が上がった項目としては、「授業力・専門性の向上」「校内外の研修を通じた多様な障害に対応できる専門性や指導力の向上」「安心安全な学校作りの項目の『避難訓練やマニュアルの整備による緊急対応体制の強化』」「地域と連携した教育活動」「エキスパート派遣事業、教育相談、研修講座の開催等」がありました。「評価次年度に向けての課題」の項にありますが、「授業力・専門性の向上」は、今年度の夏の研修がダイレクトに授業作りや教育活動に反映する内容であったことから、本校教職員や他校の参加者にも高評価で、成果があったという感想が聞かれました。それをいかに実践に活かしていくか、その実践の成果をどのように評価していくかということが今後の課題です。「避難訓練やマニュアル整備による緊急作業の強化」では、昨年に続き今年度も実際に起こりうる状況を考えながら、新たな想定を少しずつ加えて避難訓練等を行いました。それから、児童生徒が考えて動くという点も訓練の中に取り入れることができたということで成果が上がったという評価をしております。「地域連携」につきましては、現在10名のボランティアが登録されており、来年度も引き続きお願いしていこうと考えております。地域との関わりへの定着に向けて、来年度は年間計画の中にきちんと位置づけて計画的に行うことと思っています。ボランティアに入っていただく方も引き続き増やし、多様な活動ができるようにと思っています。「エキスパート派遣事業」につきましては、企画した研修について、日頃の実践に役立ちそうだという評価や、実際に役立っている様子も見られましたので高い評価をつけさせていただいています。

本年度から本格的に取り組み始めました小学部検定と例年行っている清掃検定につきましても、計画的に行うことができました。また、「授業力・専門性の向上」について、地域の教育関係者のニーズを把握しながらエキスパートを派遣したこと、地域に開かれた研修等を実施することができたということで、この地域の特別支援教育のセンター的機能をしっかり果たせた1年だったと思っています。居住地校交流についても本校は県内でも非常に高い実施割合であり、計画的に実施をして定着した1年でした。教員の働き方につきましては、まだまだ課題の多いところではあります。第2回学校運営協議会で説明いたしましたように人権意識の向上への取り組みや同僚性の向上に向けての取組を行ってきました。人権意識や支え合いについては、一進一退を繰り返しながらも、互いに支え合って業務を遂行するという形ができてきたという段階です。

説明は以上になります。よろしく願いします。

A会長 学校評価についてご質問がありますか。学校関係者評価委員会として県に提出するものです。皆様のご意見をいただきたい。今の説明を踏まえて、次の協議に移ります。

(3) 協議

【議案1】学校評価について

A会長 ご意見や質問はありますか。保護者のアンケートG委員さん保護者の立場としていかがでしょうか。

G委員 前年の反省を踏まえてしっかり指導してもらっていることが保護者の方に伝わっているアンケート結果なのかなと思いました。

A会長 14番の地域資源の活用について、3.6と低いですが、これについても去年から0.1ポイント上がっているということについてご意見ありますか。

B委員 今年度、笠岡市主任児童委員で訪問させていただきました。新しい委員になって見学したと

きに、私たちにできることはないかという話題になりました。来年度私たちにできることを考えて提案していこうということになりました。来年度お願いしたいと思います。

A 会長 教育課程の中で位置づけてボランティアをお願いしたいという説明がありましたが、例えば、この活動以外でも来てくださる方がいた場合にそれも受け入れながら教育活動を行っていくことができるでしょうか。

副校長 本年度もボランティアの申し出があった活動の中で、活動の内容とこちらの受け入れ体制が合わずに見送った活動もありました。教育課程にないから受け入れないということではなく、来年度も地域の方の要望を学校としてもしっかり取り入れていくことができればと考えています。

A 会長 外部のいろんな風を入れながら活動することが大切だと感じます。逆に、学校から出ていく活動もあったが、どのような活動がありましたか。

F 委員 職業人としてアドバイスをしてほしいという学校からのご依頼がありましたので、自分が今やっている仕事にどう向き合っていくかということをおとなりの言葉で話させていただきました。自分としても、自分が生きていく上で自分の評価ってなかなかできないのですが、そういう機会を与えていただくと、自分が果たしていい人生を送れているのか、きちんと生きているという自分への評価ができるというのは非常にありがたいなと思っています。多分、ボランティア方たちは学校の活動を応援していく上で、やはり自分がこの社会にどう向き合っていたかというようなことも評価できると思います。ぜひボランティアの受け入れをしていただきたいと思うし、そういう機会を地域へ与えていくという使命も感じていただきたいなと思っています。

E 委員 地域の教育力とか、関係機関との連携についての評価が低いということで、地域の公民館としても思うところがあります。今年度大井幼稚園が閉園になり跡地を地域で利用できるように色々話し合ってきました。以前からの西備支援学校の方からの要望として生徒が物品販売をする場所についての相談がありましたが、大井幼稚園の跡地を地元の人にも使ってもらいたいと思っています。学校は授業の一環なので、平日の昼間の活動になります。休日の公民館の行事の中では無理だけでも、幼稚園の跡地の活用の中で、平日におけるイベントを開催することができれば、支援学校の生徒さんも来ていただけたらと思います。バス停から徒歩5分なので地理的には十分利用可能なのではないかと考えています。去年の今頃、市長を呼んで、跡地をこういう風に使いたいという話をして、その後、今年度の初頭から3回市の担当者と一緒に使えるかどうかの話し合いをしました。市の施設は地元の自治会か、まちづくり協議会にしか無償貸与できないという規定があります。これはダメかと思ったのですが、市長の方から無償貸与してもらえ話をいただきました。特に私がやりたいのは、みんなの居場所として使いたいと思っています。居場所となるためには、人が寄れるような環境作り、何かイベントができればということで、休日だけでなく平日にもやりたいという方がいらっしゃいます。幼稚園跡地の利用希望があるのが、地域の方の居場所づくりとコーヒー焙煎販売、そして未就学児の発達障害の方の受け入れを考えているようです。事業化するのであれば未就学児支援に幼稚園をそのまま使ってもらう形になり幼稚園は使えませんが、大井グラウンドの中にあるプレイハウスという建物を使えるかという話をしたら、月に2回水曜日ぐらいに場所として使うことも考えられるというお話をいただいています。そこでイベント的なものを年に何回かできれば、西備支援学校の生徒にも来ていただくチャンスがあるんじゃないかと思っています。そういう場所が確保でき、使えるような方向でこれからも考えていきたいと思っていますので、形になりましたら学校の方に連絡させていただきたいと思っています。

A 会長 新たな可能性が出てきました。

C 委員 情報発信についてですが、face book は 2 年前から利用者が激減して、今 3 割まで減っている状況です。instagram は写真がメインなので（学校が扱うのは）なかなか難しい。笠岡市の小中学校はスクールメールを使っていますが、アプリが立ち上がる時間が 30 秒以上かかります。違う学校に聞いたら、LINE のクローズオープンチャットという機能を使っているとのこと。許可されてない人以外は入れないので、保護者限定でこちらから一方的に発信できるやり方を取れば、保護者全員に使ってもらえるのではないかと。今、LINE を使っている人が 1 億 4000 万人というから、日本の人口より多い。オープンチャットだったら、その都度名前も設定ができるので、例えば学年と名前を書いたらその中で情報共有ができるし、保護者が開いたら、学校の様子も載せられる。それが外に出ないように保護者にしっかり注意してもらって学校の情報を伝えることができるんじゃないかなと思います。毎日ホームページを見る人は多分少ないと思う。多分、学校の教職員も毎日内容をチェックしたりとかしないと思うので、すぐ目の前で確認できるものを活用した方が 1 番見やすいと思います。希望なのですが、子供たちが学校でどういう勉強しているか保護者はわからない。インターネット上に子供の顔が出たらダメとかいろんな条件がありますが、条件を満たす子供たちがもしあれば、YouTube などを使って動画で学校で勉強する姿を見せたら、保護者はそれを参考にして、家でも同じやり方で、学校と同じように勉強を実践することができる。子どものことは保護者が 1 番詳しいですが、勉強について先生たちが 1 番詳しいと思うので、学校の勉強の姿を一部でも見れば保護者も勉強になる。例えば、こんな音楽で子どもは踊るということが分かったら、家でも一緒にやりやすいと思います。ただ、家庭の情報公開の意向や、あと、先生のプライバシーも考慮しながら進めていけたらいいのではと思います。

A 会長 保護者限定で情報出すとことのできるような機能があるということで、できるところがあれば確認いただければと思います。教職員アンケートの方で、「空き時間の活用や業務遂行」が 3.1 と 1 番低いんですけども、理由は何が考えられますか。

副校長 支援学校の教員は児童生徒が登校してから下校するまでは児童生徒と一緒に活動することになりますが、その中でも事務や教材作りを行う時間を工夫して確保していきたいと考えています。放課後の時間は会議や関係者との連絡等、いろいろな対応に追われることが多いです。基本、空き時間というものを確保しています。空き時間と言っても、事務的な仕事をしたり、教材作りや授業構想を練ったりという時間に使っています。今年度は、体調崩す教員や感染症の関係でまとまって休みを取らなければいけない教員がありまして、このアンケートを取った 11 月ぐらいまでは、空き時間の確保が十分にできてなかったという現状があります。声を掛け合って職員室で業務をする時間を確保できていた学部がある一方、なかなか空き時間の確保ができなかったところがあり、そこが反映していると思います。年度が進むにつれて少しずつ教員の輪ができていって、お互いにいろいろなことが言い合えるようになりましたが、その中でもしんどさを抱えていたり、「空き時間があるはずなのに取れない」という思いを抱えていたりする教員がいました。「今ちょっとしんどいから空き時間作ってほしい」とかを、遠慮なく言える雰囲気になるよう徐々に改善をして生きたいと思います。この項目は、毎年評価点が低い項目ではあるのですが、説明したような状況で、突出して低くなっているのではないかなと思います。

A 会長 この内容については笠岡学園でも同じような条件だと思うのですが、いかがですか。

D 委員 同じような状況があります。子供たちがいる時間が、職員は子供たちにしっかり関わっていくということで、教材作や授業計画等は子供たちが帰った後にすることになりがちでしたが、働き方改革という言葉が浸透してきて、その中で工夫できることは何かということで、お互い

に声を掛け合っています。仕事が溜まっているところで、自分で抱え込んでしまうことがあります。それを声に出すことで他の職員が「私ちょっとここ手伝うよ」とか、自然に支え合う雰囲気ができればということで、なるべく抱え込まず声を出していこうと今努力をしているところです。時間の使い方を工夫しながら教育の内容や質も上げていきたいと、職員も日々葛藤しているという状況です。

A会長 職員の健康を含めて学習内容を充実していかないといけないと思います。空き時間をどのように活用にするか、子供と向き合う時間をどう確保するかは悩ましい問題です。今年度の評価では多くの成果もみられました。成果と課題を整理して明確化しているので、来年度にどのように生かしていくかをこれからも考えてほしいと思います。

【議案2】令和6年度学校運営方針（案）について

校長 今年度の学校評価についても、協議をありがとうございました。ご意見を来年度に改善を図っていきたいと考えております。また、学校経営計画の達成状況の方も見ていただきました。今年度から実施しております第4次岡山県特別支援教育推進プランをもとに目標を作成しています。

令和6年度学校経営計画書をご覧ください。学校教育目標につきましては来年度も変更なくいきたいと考えております。副題として、一貫性と地域連携の推進ということにしておりますが、学校は地域や関係機関と連携をして子供たちの可能性を追求する、自分らしく地域で豊かに暮らしていくようになります。経営目標の1つ目の柱として、「キャリア教育の視点に立った教育活動の推進」です。定例教育の視点を持ち、小中高及び卒業後を意識して実践していくことが必要だと考えています。本校の児童生徒は、非常に実態やニーズが多様です。根強い成長のためには、個々の情報と教育活動と関係のある継続的な指導、支援が必要であると考えています。自立と社会参加とは何かというものを考えながら、子供たちが主体となる教育を充実させることが必要であると考えています。昨年度から本校では、同世代の横のつながりを強化するために知的障害部門と肢体不自由部門の合同学習の充実を図ってきました。ただ、子供たちは将来に対する夢を持って成長するので、憧れという部分については横の繋がりだけではなく、異学年とのつながりも大切であると考えています。そこで、次年度は、こうした縦の繋がりや充実を図っていきたいと考えています。その中で児童生徒の個々のニーズに応じた学習活動を実施し、ICTの活用や視線入力などの推進の方も図っていきたいと考えています。

続きまして、「子供たちの学びを深めるための授業力・専門性の向上」ということです。これは教師の視点に立った目標になっています。やはり子供たちの学びを深める教育をすすめるためには、教師の授業力や専門性の向上というのは必要です。今の世の中は変化の多い時代となっていて、こうした時代を生きていく子供たちにとって前向きに生きていく意欲や自分の思いを周りに伝えること、また自分の願いが叶う人生を切り開いていくこと、そういった力が必要だと考えています。その基礎を養うために、子供たちから「やりたい」と願う学びを提供して、「できた」という経験を積み重ねることで自分への自信となって新しいことや困難なことにチャレンジする意欲や力につながっていくと考えます。チャレンジする意欲や学ぶ喜び、自分への自信を生み出すためにも、達成感を持てるような授業を実践することが大切と考えていますので、授業や指導、支援の工夫や、一人一人に適した学習、強みを活かした学習を、また先ほどありました外部からの人材を有効活用しながらさらに授業の質を高めることができればと思います。

続いて、「安心、安全な学校づくりのための教育環境の整備」についてです。昨今、能登

半島で地震がありました。地震の様子をテレビ等で見ますと自然の大きさってことや、災害というものは時を選ばないということを感じています。いざという時に備えることであるとか、安全教育・危機管理や緊急時の対応などについては、さらなる体制の整備、強化が必要であると考えています。また、子供たちにとって学校というのは安心できる場所でもあります。子供たちが自分たちの気持ちを伝えながら安心して生活が送れるように、教育相談体制の充実、必要に応じて関係者としてしっかり繋がっていくという教育環境の整備に努めていきたいと考えています。

続いて、「地域と連携した教育活動と特別支援教育のセンター的機能の充実」です。子供たちの教育を充実させるためには、先程ありましたように、地域の方々との関わりが不可欠です。地域の方とつながっているということ、そして地域と学校とが連携をして教育活動を充実させることで、子供たちがたくさんの経験をし、その中で社会性やコミュニケーション、考える力を高めることができればと思います。今はオンラインで間接的な連携ということも考えられます。多様な組み合わせをしながら実施していきたいと思っています。また、本校は、地域の特別支援教育の充実を図ることも一つの使命となっております。地域支援を推進するということは、その先にあります、子供たちが暮らす地域において特別支援教育に理解が広がり、地域ネットワークが拡充されることで、子供たちがより良い生活ができるということにも繋がっていきます。先ほどからありました情報発信についても工夫をしながら、地域の方や保護者に学校の様子や方針などを知っていただくために進めていきたいです。

最後、「学校運営組織の活性化による働きやすい職場づくりの推進」についてです。昨年度まで働き方改革という項目にしていたのですが、より具体的なものとししました。先ほどありましたように、私たち教職員の本業というのは子供たちとの時間を増やすということです。そのためには、学校運営組織を活性化して、計画的な業務や効率化をして必要不可欠であると考えています。昨年9月に文部科学省から教師を取り巻く環境整備について緊急提言がありました。教職員だけに限らず、やはり子供たちにも関わることとなりますので、職場環境も改善や教育活動の見直しも必要だと思っています。えー、前年踏襲ということで前やっていたからということ、新しい視点で見直すことが必要だと考えています。昨今コンプライアンス意識の向上も言われています。ワークライフバランスも考えて教職員がお互いに話し合い、支え合うことを進めていきたいと考えています。

重要な部分について主に説明をさせていただきました。ご意見をいただきたいと思しますので、よろしくお願いします。

A 会長 来年度の学校計画書について説明があったが、ご意見はありますか。

これについては来年度の計画に従って進めることをお願いしたいということですのでよろしいか。

(承認)

(4) その他

A 会長 今年度これで最後になるが委員の皆さんから一言いただきたいと思っています。

B 委員 保護者アンケートを見ながら、子供たちの卒業後のことについてとても心配をしていることが伺えます。これらのケアを地域の者と一緒に進めていくことができればと考えます。また、私は中学校に勤務しているので、先生方の働き方についてとても大変だなと感じています。先生方が働きやすい環境を作ることが必要です。中学校でも男性教員の育休が気兼ねなく取れたらと思います。気兼ねをしながら子供が熱を出して仕事を休んでいる状況があります。体制づくりを進めて働きやすい職場を目指していただきたいと思っています。

D 委員 今年運動会やせいび祭に参加し、子供の表情が一人一人輝いているのを拝見することがで

きました。保護者の方にも久しぶりにお会いし、西備での学校生活が充実していると感じました。個別の指導・支援、自立に向けた教育活動が充実していることも感じました。西備では地域との連携や開かれた学校づくりに取り組まれているということで、笠岡学園では地域とのつながりや災害時の訓練が課題だと感じました。ボランティアについては実習に来た学生や卒業生の保護者に来てもらっています。啓発としての活動も公開療育や幼稚園・小学校との連携を実施し、一緒に体験してもらい理解してもらうことが大切だと感じています。

F 委員 学校の子供たちと関わる中で、自分の生き方を振り返ることができました。地域の人たちにも学校の活動に参加することで人生を振り返るきっかけとなると思います。私は高等部の生徒と関わる人が多いので、卒業後を不安に思っている保護者がいるということで、卒業後どこかで触れ合うことがあれば声を掛けていきたいと思っています。地域では学校の宣伝を進んでしていきたい。これまで学校と関わることでいろいろな勉強させていただきました。

E 委員 学校運営協議会ではもっと若い人や女性の意見も取り入れていくことができればと思います。私が西備と初めて関わったのが桃十字の活動の時で、公民館長になってからは学校評議員となって10年関わらせてもらいました。ありがとうございました。

A 会長 支援学校は小学校から高校まであります。生活年齢によってそれぞれの教育内容が変わっているが、一貫していないといけないし、保護者の思いをくみ取りながら一人一人の児童生徒を見て実践する力が教員に求められている。今日の餅つきの映像の中に声を出している子供がいましたが、その様子を見て「何で声を出しているのか」ということに思いを馳せることができればいいと思います。合言葉は「子供のために」。これからもいろいろな考えを取り入れながら繋いでいくことができればと思います。来年も充実した会になることを期待しています。

(6) 閉会（校長）

本日はたくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございました。私たちが1年間かけてやってきたことを報告させていただきましたが、目標の達成度や評価は子供たちの姿に全て反映されていると思っています。子供たちが生き生きとしていて、そしていい表情で学校生活を過ごす、それが私たちが取り組んだ成果の1つになっていると思います。先ほどの協議の中で地域との連携、地域人材の活用ということで、保護者の方の評価が低い部分があったと思います。これはできていないと言いますが、逆に言うと今やっている取り組みをもっとやってほしいと求めている部分もあるのではないかと考えます。そういう意味で、本日皆様方からいただいた意見を基に、また来年頑張っていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願います。今日はありがとうございました。